



12月の園だより

令和7年12月 富田林市立錦郡幼稚園

土づくり ～すべての生きものの命を育むために～

早くも1年の終わり、師走となりました。『師走』とは、年末(旧暦の12月)に多くの仏事・法事が行われるため、師(僧侶)がお経をあげに各家庭を忙しく走り回る姿をさして名づけられたという説が最も有名なのですが、今では、師だけでなく誰しもが、どこか(なぜか)あわただしい気持ちになってきます。こんな時こそ、あわてて事故やケガをすることのないよう、お互いに気をつけましょう。

話はかわって、過日こどもたちとみかん狩りに行ってきました。最初にみかん園の方から、みかんのとり方について教えてもらいました。「片手で枝(取りたいみかんのヘタのすぐ先)を持ち、反対の手でみかんを持ってグルグル回すと、上手にとれるよ!」「枝を折ったり、みかんだけを無理に引っ張ったりしないでね」にしこおりっ子は、本当にえらかったです。先ほどの教えを忠実に守り、そして、たわわに実ったみかんの中から、どれが甘くておいしいか、自分なりに予想しながら、みかん狩りを楽しみました。とったみかんはその場で食します。まず、皮をむいて備え付けのかごにきちんと入れました。そして、いよいよ口に・・・。「甘い!」「おいしい!」予想は見事的中していました。この後も、お弁当を挟み、みかん狩りや散策などで楽しい一日を過ごしました。

帰り際、先ほどの園の方にお話を聞かせていただきました。「これからが忙しいんですよ!」みかん狩りは12月上旬までとなっていたので、どうして忙しくなるのか不思議でした。「土づくりですわ」シーズン終了と同時に、地面の整備や土壤の改良にとりかかられるとのこと。年末年始も三が日のみ休みで、この作業は春まで続くのだそうです。「来年もたくさん実って、多くの人にみかん狩りを楽しんで欲しいからね」

私たち人間も含めすべての生きものは、生きものを食べて生きています。「人間は、生きものを食べないよ」そうおっしゃる方には、「人間だけがつくれる加工物も含め、もともとは動植物、つまりは生き(ていた)ものを食べているのですよ」とお伝えしたいものです。その上で、生きものの命のみなもと(土台)は、土であり、逆に言えば、この土の良しあしさが、すべての生きものの命の育みを決定づけていくのです。

本園の特色のひとつである『ビオトープを中心とした環境教育』の中で、ビオトープ池に堆積した泥(どろ)には、落ち葉やメダカ、タニシのふん等の栄養分が豊富に含まれていて、天日干ししてから花壇や畑などの土に混ぜると立派な肥料になることを以前教えていただき、現在も実践しています。また、この土で育てた野菜などを使って会食をするなど、食育にも役立てています。食事の前には、こどもたちと一緒に「(生きものの命を)いただきます」とそっと手を合わせます。

園長 塩野 義和